

## 平成16年をふり返って

4階東病棟看護科長 田中 直子

## 1. 病棟の現状

平成16年は、看護理念が「心のこもった看護」「信頼される看護」「安全な看護」に変更されました。また医療機能評価の受審ということが大きな事業であり、病棟においては各種マニュアルの見直しや作成に多くの時間を費やしたのが現状であった。

平成16年に入院された患者数を平成15年と比較した結果消化器内科、眼科共に減少傾向であった。月別の入院患者数の比較は図1、図2に示す通りである。

## 2. 固定チームナーシングの評価

平成16年は、昨年導入した看護方式である固定チームナーシングを軌道にのせ運用することが重要な課題であった。固定チームのため患者さまの理解が深まることは長所であり当病棟においても良い評価に繋がった。

しかし担当チーム以外の患者さまの状態把握に関しては、不十分さが残った。また、チームは病室別としたために、患者さまの状態により病室の移動が多く、担当看護師の変更が多かった。患者さまには迷惑をかけたのではないかと反省し、担当看護師については、今後の課題として検討したいと考えます。

## 3. 病棟目標の評価

病棟目標の関しては、看護理念の変更や看護部目標の一部変更に伴い、安全な看護の提供を第一に掲げました。安全な看護においてヒヤリハット

や事故は、マニュアルが守られないために起因することが多い。そのためマニュアルを厳守することが事故防止の最大の鍵となります。朝礼時に確認作業に時間をかけて、決して手を抜かないことを周知しました。しかし、緊急入院や臨時指示で注射の準備の際にマニュアル通り二人で確認をせずに準備して内容が違ったということがあり、どのような事態でも「二人で確認」を徹底しなければ事故防止にならないことを痛感した。

第二に「思いやり」「暖かさ」「患者さまに寄り添う」看護を提供するため、患者さまを家族の一人と思うように看護を提供しました。当病棟の特長であるターミナル期の患者さまや検査や手術に対する不安をいだいた患者さまが多く、患者さまだけではなくその家族にも、看護を提供している担当者がわかるように、病室の担当看護師であることを患者さまに周知し病室には担当看護師の氏名を掲示しました。しかし、時折掲示をするのを忘れており習慣化されていないことがあった。

第三の目標は病院全体で取り組んだ医療機能評価受審のために、マニュアルの見直しや作成をした。医療機能評価は第三者の目で評価されるため、日々の看護において気がつかなかった点が明確となり今後の看護の改善点が見出せたことは価値があった。特に看護記録について、看護しているが記録として記載されていなかったことについてはスタッフ一丸となり改善していかなければならない点である。

平成16年は係長が2名となり病棟を運営してきました。また、医療機能評価において課題が明確になりました。患者さまやご家族に質の高い看護を提供できるように更なる努力をしたいと思います。

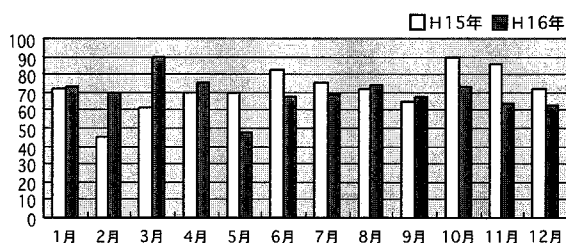


図1 平成15年16年月別消化器内科入院患者数の比較

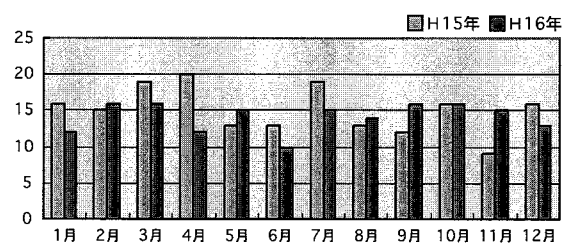


図2 平成15年16年月別眼科入院患者数の比較